



栄小学校だより

令和3年12月10日(金) No.30

○栄小学校代表として他校との交流です。 人権フォーラム(6年)

12月7日(火),6年生が天栄中学校にて開催された「令和3年度 天栄中学校区人権フォーラム」に参加しました。

この行事は,毎年「人権週間」に合わせたこの時期に天栄中学校区の全6年生(合川小,天名小,郡山小,栄小)と天栄中2年生の代表が集まり,人権について話し合う交流会です。

今年度の課題は,「あなたならどうする?」です。意見交流がしやすいように,参加者を8つのグループに分けて行いました。最初は,自己紹介も兼ねての「名刺交換」,その後,緊張をほぐすための簡単なゲームをし,話し合いに入りました。各グループとも天栄中2年の代表が,ファシリテーター的な役割をしっかりとこなし,参加者全員が活発で忌憚(きたん)のない意見交流ができました。

今は,別々の小学校だけど,大部分の人は春からは,「天栄中学生」です。新しい人との出会いは,交流の輪が広がり,人として成長していきます。6年生のみなさんは,数か月後の入学を楽しみに,「今」を全力で過ごしてください。



4校交流会(5年)

12月9日(木),5年生が鈴鹿青少年センターで開催された「天栄中学校区4校交流会」に参加しました。4校の児童が集まるのは,これが初めてです。

入所式では,各学校の紹介を全体で行い,その後,小グループ(18班:6人ほど)に分かれて自己紹介やレクリエーションをしました。その後,お弁当を小グループで食べました。午後は,創作活動「焼杉の飾り製作」です。その後,キャンドルファイヤー,セレモニータイムを行いました。最後は,全体のレクリエーションゲームをしました。

短い時間でしたが,4校で合わせて100名を超える児童が集まって,この交流会ができたことは,大変意義があったと思います。



天栄中学校区では,9年間の義務教育期間をひとつと捉えて,中学校・小学校が連携をして,学習する場面を設定しています。このことは,多くの人と出会い・触れ合う機会が増えることで,単級学校(1学年1クラス)の弱みを軽減し,また,「中1ギャップ」と言われる中学校入学後の問題に対応しています。各活動にご理解いただきますようお願いいたします。

○食育「おせち料理について」

12月8日(水)に、6年生が栄養教諭の清水先生より、食育授業を受けました。授業のテーマは、「おせち料理」です。おせち料理に入っているものの言われなどを勉強し、ICT機器を活用しながら、架空の「マイおせち」を構想しました。日本の古き良き伝統文化を次の世代につなげてほしいものです。



○パソコンの持ち帰りについて

GIGA スクール構想により導入されたパソコンを持ち帰り、家庭での学習に活用していただきたいと思います。12月10日～13日と冬休みに持ち帰り期間を設定します。また、3学期には月に2～3回の持ち帰りを考えています。

- ①12月10日(金)に持ち帰り、12月13日(月)に学校へ
- ②12月22日(水)に持ち帰り、1月12日(水)に学校へ

全学年、持ち帰りをします。宿題や課題等、学年によって内容が違いますので、学年通信等でご確認ください。また、使用上のルールについては、授業でも確認いたしますが、各ご家庭でも効果的に使用できているか確認をしながらの活用をお願いします。

【使用してはいけないこと】

- ・学習と関係のないページを見ること
- ・オンラインゲーム等
- ・YouTubeなどの動画サイト等の視聴(先生が紹介した動画のみOK)
- ・SNSの利用

☆特集 保護者に向けた「親塾シリーズ」No.9

○子どもの夢と親の役割

「大きくなったら何になりたい？」親なら一度は子どもに聞いてみるセリフですね。4～5歳の子どもは元気に「ウルトラマン!」「プリンセス」なんて答えて微笑ましいものですが、だんだんと子どもの考えも変わっていきます。

小学生低学年のお子さんなら、まだまだ可愛い夢を語るかもしれません。でも、親が思っている以上にその夢を真剣に考えているのが子どもです。どのようなアドバイスをするにせよ、親の思いだけを語るのではなく、子どもの話をきちんと聞いてあげたいですね。

子どもが語る夢を、大人が知る現実で「無理」とたたきつぶすのではなく、あるいは親が思っている「これが理想の生き方」を押し付けるのではなく「未来」を親子で楽しく語り合えるのが小学校時代においては大切なのではないのでしょうか。そしてやがて「これをやりたい」と口にしたら、できることならチャレンジする機会をあげたいですね。

「挑戦させてあげること」それはもしかしたら親が子どもに与えられるもっとも大きなプレゼントかもしれません。

挑戦し失敗しても、この両腕をひろげて「おかえり」と子どもを迎えてあげられるからです。夢が叶っても叶えられなくても、成功してもしなくても、愛するかわいい子どもであることにかわりはないからです。挑戦の次にできることを一緒に考えてあげられるから、です。なぜなら、わたし達は親だから、です。

「子どもと夢を語り合い、応援する親であってほしい!」可能性は無限大